

ベトナムにおける外国企業の植林投資：QPFLと VIJACHIP

ラ, ヴィンハイハー

九州大学大学院生物資源環境科学府森林資源科学専攻森林生態圏管理学講座森林生産制御研究室

飯田, 繁

九州大学大学院農学研究院森林資源科学部門森林生態圏管理学講座

<https://doi.org/10.15017/15528>

出版情報：九州大学農学部演習林報告. 87, pp.23-35, 2006-03-27. 九州大学農学部附属演習林
バージョン：
権利関係：

論文

ベトナムにおける外国企業の植林投資*
— QPFLとVIJACHIP —

ラヴィンハイハー** 飯田 繁***

抄 録

ベトナム政府は1998年から2010年までに「500万ha国家植林計画」を策定した。計画の目標を達成するために、私的経営が推奨され、非国営企業、組織、世帯、個人、外国資本との合弁会社による植林や林産物加工分野への投資が奨励された。中部沿岸地域はアカシアやユーカリの適地とみられていたが、外国企業の植林投資条件が緩和されたこともあり、中部沿岸においてQPFL社とVIJACHIP社が設立され、未立木地を対象に製紙原料の生産を目的とした植林が進められることになった。QPFL社は土地の確保に苦勞し、地力の悪い所に植林せざるを得なかった。これに対しVIJACHIP社は地元植林会社を協力企業にしたため、優良地における植林を進めることが出来た。また、ハイブリット苗を利用した地域住民の植林が周辺に広がった。こうした外国企業の役割について考察する。

キーワード：植林投資，外国資本，チップ生産，土地利用権

*LA, V. H. H and IIDA, S.: Investment for Afforestation by Foreign Companies in Vietnam.

**九州大学大学院生物資源環境科学府森林資源科学専攻森林生態圏管理学講座森林生産制御研究室

Laboratory of Forest Resource Management, Division of Forest Ecosystem Sciences and Management, Department of Forest and Forest Products Sciences, Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Fukuoka 811-2415

***九州大学大学院農学研究院森林資源科学部門森林生態圏管理学講座

Laboratory of Forest Resource Management, Division of Forest Ecosystem Sciences and Management, Department of Forest and Forest Products Sciences,

1. はじめに

1986年の党大会で、「ドイモイ＝刷新」政策（Doi moi chinh sach）が表明され、この政策によって、政治の「民主化」、情報の「公開化」、経済管理機構の改善、農産物生産の請負契約、国有企業の経営自主権の拡大、非社会主義セクターの積極的活用、市場での生産物の自由な取引、外貨規制の緩和など経済改革が決定された。1987年には閣議決定217号「国営企業の計画化及び社会主義的経営計算制を刷新する諸政策」が実行され、国営企業の経営自主権の拡大が図られた。1989年には第16号決議「非国有経済セクターに関する政策と管理システム」が出され、国有企業、民間企業が併存する市場経済システムの準備が始まった。

森林・林業面では、1960年から、「新経済ゾーン」政策が始められ、山岳部の開発と平地の人口過密を解決するため、北部山岳地に農民を移住させた。ベトナムの統一後、新経済ゾーンはさらに拡大された。特に南東部、中部高原では未開発地域を開墾するため、天然林が伐採され、大規模に森林が農地へ転換された。また、森林は国有化され、国営の森林管理署が設立され、林業生産の主要な担い手となった。他方、農村では合作社が導入された。しかし、農林業のみならず、多くの産業が停滞的で、経済は縮小傾向にあった。当然のことながら、植林活動は広がらず、逆に天然林の伐採や開墾が広がったため、1943年から1995年までの約50年間に500万haの森林が消失した。この時期における主要な林業問題は、森林減少をどのように阻止するかであったが、入植政策による農地の拡大、少数民族等による焼畑移動耕作の存在、植林や再生を伴わない伐採などのために成果を上げることができなかった。

このような森林荒廃に対処するため1992年にプログラム327が発表され、残された森林を保護するとともに、未立木地に対して大規模な森林再生・修復計画が策定された。さらに1997年には、いわゆる「500万ha国家植林計画」が公表され、2010年までに500万haの植林を行い、森林率を当時の28%から43%に高めることを目標とした。その過程で環境保護、経済開発、林業振興、貧困を同時に解決しようとする壮大な計画であった。天然林保護については、天然林原木・製品の輸出を禁止し、年間伐採量を30万m³に制限した。そして、政府の森林管理組織が地域住民と年間1ha当たり5万VND（ベトナムドン：¥1≒VND 140）で保護契約を結んで保護できるようにした。植林については、国家植林予算の外、非国営企業、世帯、外国企業による植林が推進されることになった。その結果、2003年の森林面積は1,209万haに増加した。1995年から2003年までに約279万haの森林が増加したことになる。その内訳は、天然林175万ha、人工林104万haである。森林率は、1995年の28.1%から2003年には36.1%に上昇した。

ところで、植林の拡大、産業誘致と資金不足を補うため、外国の投資が歓迎された。1993年、Da Nang市でVIJACHIP社による合弁チップ工場が稼働し、以降、輸出は拡大し、1994～2004年の対日輸出量は約103万BDT（206万m³）を記録した。他方、植林事業（約1万ha）とチップ材の対日輸出を目的としたQPFL社が中部のBinh Dinh省Qui Nhon市に設立された。本稿では、その外国企業の実態について中部沿岸における現地調査に基づいて明らかにする（図1）。

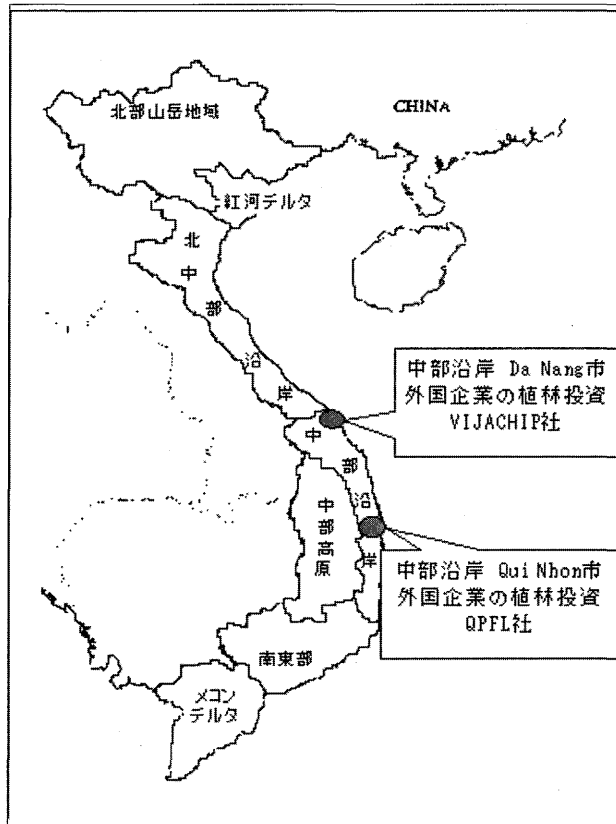


Fig.1 Survey Areas.

図1 調査地域

2. 研究方法と調査対象の性格

2.1 研究方法

2.1.1 ベトナム中部における植林投資の特徴

ベトナムの森林統計をもとに森林面積の変化について分析した。その結果、1995年（森林が最少になった年）と最近（2003年）を比較し、人工林の増加について3つの異なった地域があることを確認した（表1参照）。それはゴム園や果樹などの「工芸作物」の植林が広がっている南部平坦地域、外国投資によるチップ生産を目的とする植林が広がっている中部地域、国内製紙原料生産を目的とした北部地域である。このうち、南部と北部の分析は別稿にゆづり、本稿では中部地域の植林投資の特徴について述べる。

2.1.2 訪問調査とその限界

中部地域でもっとも活動的かつ性格の異なる2社（QPFL社、VIJACHIP社）を主要な調査対象とし、直接訪問し、インタビュー形式で経営方法について聞くと共に植林地の見学や下請企業、協力企業、植林者等を訪問し、植林活動の実態を明らかにする方法を採用した。当初の計画では1週間以上滞在し、全植林者を対象に面接することを考えていたが、両社に長期の負担を強いることができなかったこと、また、現地企業に警戒感があ

り、それぞれ3日間の調査しかできなかった。時間不足もあって、協力企業や植林者は代表的（地域の傾向をよりよく示すもの）を選定してインタビューした。

表1 1999-2003年のベトナムの森林推移

Table1 Official Forrest Areas of Vietnam 1999-2003.

単位：ha

	地域区別	天然林		比較	人工林		比較
		1999年	2003年		1999年	2003年	
1	紅河デルタ	45,333	49,799	4,466	38,306	45,474	7,168
2	北部山岳地域	2,775,004	3,359,122	584,118	557,420	833,706	276,286
3	北中部沿岸	1,835,633	1,909,288	73,655	300,017	418,879	118,862
4	中部沿海	969,316	980,508	11,192	169,975	238,030	68,055
5	中部高原	2,339,167	2,284,609	-54,558	33,949	83,181	49,232
6	南東部	1,416,643	1,355,389	-61,254	164,357	241,086	76,729
7	メコンデルタ	63,103	65,995	2,892	207,372	229,451	22,079
	計	9,444,199	10,004,709	560,510	1,471,396	2,089,809	618,413

注：ベトナム森林警察局のデータをもとに作成
<http://www.kiemlam.org.vn>

2.2 調査対象の性格

2.2.1 QPFL社

QPFL (QUY NHON PLANTATION FOREST COMPANY OF VIETNAM LIMITED) は、資本金415万ドルで王子製紙(株) 51%、日商岩井(株) 39%、大日本印刷(株) 10%の出資によって設立された。事務所のあるBinh Dinh省のQui Nhon市はHo Chi Minh市から飛行機で約1時間半、人口26万の都市である。リゾート開発で注目されるニャチャンと古都フエのほぼ中間に位置している。日本人スタッフは現在3名、その他に英語のできるベトナム人職員で運営されている。

ところで、製紙会社の海外植林は現地合弁会社が土地を所有するか、借地によって広大な面積を確保した上で行われる。この伝統的な方法がベトナムでも採用された。当初は国有化された土地であり、容易に1万ha程度の林地が確保できると考えたようである。また、Binh Dinh省の関係者もそのように考え、事務所の近くに候補地を示したという。しかし、植林を始めようとしたところ、不法土地利用の地域住民と植林者(QPFL)が対立した。地域住民からクレームの上昇が止まらない植林地さがしに苦勞することになる。そして、結果的に植林地は省全域に広がることになった。

2.2.2 VIJACHIP社

木材チップ製造会社VIJACHIP (VIETNAM JAPAN CHIP CORPORATION) は1993年に設立された。同社はベトナム中部で植林し、チップを日本に輸出する会社であるが、植林は直接実施せず、地元会社へ融資することで植林を進めている。VIJACHIP事務室はDa Nang市のTien Sa港に置かれているが、中部4省1都市(Quang Tri省、

Thua Thien Hue省, Quang Nam省, Quang Ngai省, Da Nang市) にそれぞれ一社ずつパートナーが配置されている。

資本金は1,166,000ドルであり, 双日株式会社(旧日商岩井(株))を代表株主とし, 参加企業の資本割合は次の通りである。

- ① Vietnam Forest Corporation(Vinaforベトナム林業公社)17.2%の資本金負担。同公社は50万haの植林事業計画を持ち合板, 集成材, ファイバーボード, 紙・パルプ, 鋳山用坑木の原木を提供することを目的としている。
- ② Forestry Science and Production Center of Northern Area of Central Vietnam, Quang Tri (Quang Tri省, 中部沿岸林業生産研究センター) 8.6%の資本金負担。ベトナム林業科学研究院附属機関で, 森林研究と生産を担う。
- ③ Forexco, Quang Nam (Quang Nam Forest Products Export Joint Stock Company) 5.6%の資本金負担。内装, 家具材を製造し, 輸出する会社である。
- ④ Forest Business Enterprise, Thua Thien Hue4.3%の資本金負担。Thua Thien Hue省の林産物を取扱う会社である。
- ⑤ Agforexco, Quang Ngai (Quang Ngai Agricultural and Forestry Products-Exporting Stock Company) 4.3%の資本金負担。森林経営, 林産物加工, 輸出の会社である。
- ⑥ Sojitz Corp. Tokyo Japanが60%の資本金を負担し, VIJACHIP社を運営する会社。

一般に商社による木材輸入は, 融資を介したものである。VIJACHIP社も同じように融資を利用したものである。融資を利用するためには現地に林業企業体が存在し, 土地, 労働力に支障がないことが条件となる。したがって, 地域の有力な林業企業体と結びつき, そこに資金を投入し, 生産量を確保する方法が採用される。地元企業の土地支配力, 労働力支配が生産力向上の有力な条件となる。そのため, どのような地元企業と協力関係を持つか, それが最大の関心事となる。

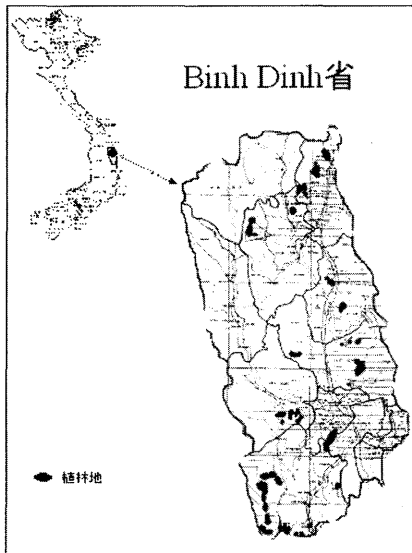


Fig.2 Plantation Sites of QPFL Corporation.

図2 QPFL社の植林地

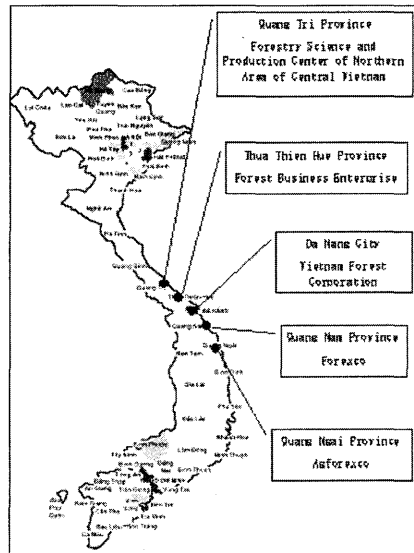


Fig.3 Partner Companies of VIJACHIP Corporation.

図3 VIJACHIP社のパートナー

3. QPFL社の植林投資

3.1 植林事業

広葉樹チップ原料の確保を目的として、ベトナム中部Binh Dinh省において、アカシア、ユーカリを無立木状態の丘陵地に年平均1,300haの植林を実施している。この地がベトナムにおいてアカシアとユーカリの最適地と認定されたことが、王子製紙進出の理由である。植栽密度は1,100本/haである。1995年から植林に着手し、当初はユーカリ類が主体であったが、その後はアカシアハイブリッドに重点が置かれている。ハイブリッドアカシア苗は2000年頃からクローンバンク（採穂園）が整備されたことにより、本格的に育成され、2002年からはすべての新植地でその苗を植林するようになった。2003年度末までに、延べ11,443haの植林が行われた。植栽間隔は2m×3mで1haあたり1,600本であり、伐期は7年である。最初の植林から8年目となる2002年7月から伐採を開始し、その跡地にアカシアハイブリッドを再植林している（表2）。

表2 植林面積の推移
Table2 Plantation Areas of QPFL Corpration.

単位：ha

年	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
植林面積	1,398	1,412	1,786	1,267	1,262	999	1,206	942	1,171
伐採面積	-	-	-	-	-	-	-	1,335	1,475
残存面積	1,398	2,810	4,596	5,863	7,125	8,124	9,330	8,937	8,633

注：QPFL社のデータ

植林用地は、焼畑跡地などの荒廃林地である。土壌はグレーソルで、養分は少なく、傾斜地であるため、表土が流失し、岩盤が露出しているなど不適地が多く、成長はよくない。また、植林地は省全体に分散している（図2参照）。土地はBinh Dinh省人民委員会より、35年の賃貸契約によって確保されている。苗木生産、植林作業、収穫などはBinh Dinh省の木材公社PISICO（Binh Dinh Production Investment Service Import-Export Company）に委託している。土地の借料は1年間あたり10ドル/haである。

3.2 アカシアクローンバンク

2000年に、QPFL社は0.5haのクローンバンク（採穂園）を造成した。そして、毎年徐々に面積を拡大し、2004年には2.3haになった。植栽密度は1m×1mで1haあたり1万本であり、2004年には合計約2万本となっている。このクローンは、ベトナムの高品質アカシア（実生アカシア）のほか、オーストラリア、パプアニューギニアから導入したものや独自に選抜したものである。現在、55クローンが管理されている。クローンは2年目から採穂が可能である。毎年3月から6月まで、約20日毎に1回採穂を行うことができる（年間6回の採穂）。2年目は1本あたり約90～120本、3年目は1本あたり約150～180本、4年目及び5年目は1本あたり約210～240本のクローン（挿し木苗）の生産ができる。クローン親木は5年目に更新する計画である。

3.3 苗木生産

苗木生産、植林作業などはPISICO に委託している。クローンバンクから発泡スチロールの箱に採種した穂を入れて苗木ハウスへ運搬する。挿し木はポットに直接さしつける。ポットの大きさは直径4cm、高さ10cmである。約2週間で野外の庇陰下へ出し、2ヶ月半で苗高25～30cmの山行き苗になる。施設では年間50～60万本の苗木を生産する能力がある。

3.4 収穫及びチップ生産

植林地の土壌が良くないので、成長のよいところで、伐期7年で1haあたり70m³程度しか収穫することができない。なお、年平均生長量が最大となる伐期は20年程度であるが、山岳地であり、肩にかついで搬出するため、搬出可能な重さを考え、7年としている。当初は年間約60千m³のパルプ材を収穫し、約30千BDT (Bone Dry Tonne : 絶対乾燥重量, 1BDT = 2 m³) のチップを生産する計画であったが、最初の収穫年である2002年度は45千m³しか収穫できず、17千BDTのチップを王子製紙向けに出荷するにとどまった。伐採はチェーンソーで行っているが、皮むきや集材、トラックの積み込みまではすべて人力で行われている。2.2mに玉切り、末口4cmまでの材を収穫する。チップ工場はBINH DINH CHIP という会社で、QPFLも出資し合弁で運営している会社である。生産量は5万BDT (原木約10万m³) で、将来的には15万BDTを目標としている。

4. VIJACHIP社の植林投資

4.1 地域住民の植林活動

先述のように植林事業は4省1都市で実施されている。1993年から2001年までに約13,000haの融資植林が実施された。10年前に植林費用の半額を融資し、2000年に回収が終わったという。その後2001～2004年には約600万本のアカシアとユーカリの苗木を地域農民に無料で配布し、植林の継続性を促した。VIJACHIP社のパートナーと分収造林を行っている3つ植林世帯(滞在期間中にインタビューできる世帯)について聞き取り調査を実施した。以下、それについて述べる。

表3 省別植林面積の推進

Table3 PiantationAreas by Provinces.

単位 : ha

	QuangNam	QuangNgai	ThuaThienHue	QuangTri	DaNang	総計
1993年	219	700	100	294	252	1,565
1994年	88	265	588	0	128	1,069
1995年	321	287	921	0	57	1,586
1996年	338	256	711	318	240	1,863
1997年	209	443	0	264	648	1,564
1998年	588	425	0	310	349	1,672
1999年	726	221	0	115	123	1,185
2000年	215	209	180	392	63	1,059
2001年	0	1,203	0	296	0	1,499
計	2,704	4,009	2,500	1,989	1,860	13,062

注 : VIJACHIP社のデータ

4.2 植林世帯の調査

1) 植林世帯①

世帯主のThinh氏は1994年にThua Thien Hue市Phu Loc地区人民委員会と150haの林地（未立木地）について契約を結び植林を始めた。そして、翌1995年にも新たに150haを契約し、さらに1996年には200haの未立木地を加え、合計500haの植林を進めている。植林契約期間は以下の通りである。

-1994年：150ha契約，契約期間：50年

-1995年：150ha契約，契約期間：30年

-1996年：200ha契約，契約期間：20年

1993～1998年，Thinh氏はユーカリを植えたが，収穫量は少なく，ほとんど経済的な意味を持たなかった。しかし，引き続き，2001～2005年に500haの伐採跡地にアカシアを再植林した。植林資本はVIJACHIPのパートナーであるThua Thien Hue林業企業（Forest Business Enterprise, Thua Thien Hue）からローンで1haあたり600万VNDを利率1年あたり7％で借りている。伐採後，彼はThua Thien Hue林業企業に原木を売る予定である。なお，伐期は7年間を予定している。表4はThinh氏の植林状況である。

表4 植林状況
Table4 PiantationAreas of Mr.Thinh.

年	1993～1998	2001～2005
植林面積	500ha	500ha
樹種	ユーカリ	アカシア

注：調査の聞き取り（2005年8月）

2) 植林世帯②

次にTuy氏は，1991年植林目的でThua Thien Hue市Phu Loc地区人民委員会から130haの林地（未立木地）を交付された。その林地は土地利用権の証書（Red-Book）が認められた。同年中に110haのユーカリを植えた。しかし，2000年までに，ユーカリは病害をうけたために，収穫できなかった。調査は植林地で行われた。なお，同氏はこの植林を実施するため，多数の地元住民を雇用している（写真2参照）。しかし，残念ながら何人雇用しているかその人数について確認することができなかった。

表5 植林状況
Table5 PiantationAreas of Mr.Tuy.

年	1993～2000	2001～2005
植林面積	110ha	130ha
樹種	ユーカリ	アカシア

注：調査の聞き取り（2005年8月）

2001～2005年，130haにアカシアを再植林するため，Thua Thien Hue林業企業から500万VND/ha，利率7％/年で借りた。また，銀行から10億VNDを借りた。その際の利子は原木の4％である。なお，銀行のローンを受けるために，土地利用権の証書が担保になっている。2000年に予定していたユーカリの収穫が出来なかったため，2001年の

アカシア植林コストは、1haあたり2,000万VNDといわれた。返済すべき元本と金利が上乗せされたためである。表5はTuy氏の植林状況である。



Picture1 FiveYears Old Acacia Species Species Planted of Mr.Tuy.

写真1 Tuy氏の植林地、5年生のアカシア



Picture2 Workers at Lunch Time.

写真2 雇用労働者の昼食の様子

3) 植林世帯③

3人目はAn Chau村の村長である。村はDa Nang市Hoa Vang地区 Hoa Phucコミュニティに属している。1995年、村長はHoa Vang地区人民委員会から180haの林地を交付された。植林は1996年から行い、120haのユーカリと60haのアカシアを植えた。2004年に収穫した木材の売り先はVIJACHIPのパートナーであるForexco Quang Namで、販売価格は、次の通りである。

(1) ユーカリ (120ha)

ユーカリ価格 (皮むき) : 1台車 (13トン) = 1,500,000VND . 120haのユーカ

リから約4,800トンの木材を収穫した。ユーカリの売り上げは553,846,154VND (4,800/13×1,500,000VND), 約395万円である。

(2) アカシア (60ha)

アカシア価格 (皮むき) : 450,000VND/トン。60haのアカシアから1,200トンの木材を生産した。アカシアの売り上げ額は540,000,000VNDである。しかし、村長によれば、銀行の利子は1年あたり10%で非常に高かった。そのためアカシアとユーカリから自分の得た収入はなかったという。

ところで、2004年、60haにアカシアを再植林している。アカシアを植えるために、Forexco Quang Namから900万VND/ha (苗木, 手入れの3年) という条件で融資を受けた。利子は5%/年であるが、収穫後、分収形態で収益分配することになっており、分収率は50:50「植林者:Forexco Quang Nam」と決められた。表6は村長の植林状況である。調査は植林地で行われた。その際の雇用労働者は2名であったが、年間の雇用者は確認していない。

表6 植林状況

Table6 Plantation Areas of Village Chief.

年	1996~2004		計	2004	2005~	計
植林面積	120ha	60ha	180ha	60ha	120ha	180ha
樹種	ユーカリ	アカシア	ユーカリ、 アカシア	アカシア	アカシア	アカシア
収穫	120ha	60ha	180ha	なし	なし	なし

注：調査の聞き取り (2005年8月)

4.3 チップ生産

VIJACHIP社は1994年に生産を開始した。1994年の生産量は53,000GMT (Green Metric Tonne : 水を含んだ丸太の重量) であったが2003年には303,000GMTと急激な伸びを示した。更にVIJACHIP以外のチップ工場が、この2~3年で乱立し、地域のチップ供給能力は、年間600,000GMT以上と推測される。そして、対日輸出量としては1994には21,620BDTであったが、2004年には157,371BDTとなった。

最近は建築用材の用途も増えつつあり、Quang Tri省では、年産5万m³の原料を消費するMDFの工場が稼働するなど、植林木の需要は急増している。

5. おわりに

国家植林計画を達成するために、私的経営が推進され、非国営企業、組織、世帯、個人、外国資本との合弁会社による植林や林産物加工分野への投資が奨励された。この計画に基づいて、中部沿岸ではQPFL社とVIJACHIP社が設立され、未立木地を対象に製紙原料の生産を目的とした植林が進められた。実施主体は地域の企業的農民であり、植林が利益のある事業と確認されるようになり、植林が自然にかつ急速に広がるようになった。

QPFL社は、2003年度末までに述べ11,443haの植林を実施した。しかし、土地の確保に

苦労し、地力の悪い所に植林せざるを得なかったため成長はよくない。また、植林地は分散している。これに対してVIJACHIP社は、地元植林会社を主力にしたため、優良地における植林を進めることが出来た。1993年から2001年までにVIJACHIP社は約13,000haの融資植林を実施した。また、VIJACHIP社が成長した木材を自分のところに売ってもらうため、2001～2004年には、約600万本のアカシアとユーカリの苗木を地域農民に無料で配布した。ハイブリッド苗がDa Nang市周辺に普及し、植林が広がった。植林に対する技術指導は不要になり、問題は加工過程、流通過程に移行しつつある。VIJACHIP社は第2工場をDa Nang市北方300kmのHa Tinh省Vung Ang港に2002年に建設し、稼働している。生産の能力は年産14万BDTである。現在、Hanoi市東方Quang Ninh省Cai Lan港に第3工場の建設認可が下りたところで、3工場あわせると年間42万BDTの生産・輸出が可能となる。これらの外国企業が参入したことによって以下のような諸点があきらかとなった。

第1は、社会主義的土地所有や利用権をめぐる課題である。QPFL社が直面した課題は、土地国有とは名ばかりで実質的には旧来の利用権が生きており、それを明示し、保証するような新しい概念が必要だという点である。例えば、南東部Lam Dong省、Lam Ha地区の調査事例では、政府の移住政策の終了後、許可されない世帯も移住し、森林に侵入した。そのため多くの不法耕作者が居住し、食料自給のために林地が不法耕作されている。Lan Tranh森林管理委員会の森林資源の状況は、大部分の未立木地は移住民の不法耕作地である。政府から配分された面積（51.9ha）の契約地をもつA氏の場合にも15haの不法利用地がある。植林のために、正式契約をしたA氏は不法耕作者との間で、交渉しており、その不法利用の面積に対して不法耕作者に代金を支払って移動を求めている。他方、VIJACHIP社をめぐるのは、植林者に交付された利用権が通達の限度（30ha）を超えている点である。こうした土地をめぐる法制度の整備が必要となっている。

第2は、外国企業の役割である。社会主義国ベトナムには植林した樹木の市場がなく、計画してもその実行は進まなかった。しかし、外国企業が参入し、国外市場を目指して植林が行われるようになり、それが地域の植林を活性化させる要因となった。近年、中国や東南アジアの紙需要の増大が見込まれ、日本を含めた外国市場に向け、生産が拡大するものと予測される。

第3は、日本企業が持ち込んだハイブリッドアカシア苗を挿し木で増殖する方法が地域の企業や農民に普及したことである。また、チップ生産は5～7年で収穫できることから、知恵と資金のある者は100ha以上の林地を借り、あるいは利用権の交付を受け、植林を進めるようになっている。その規模は通達の基準（30ha）を超えているが、こうした企業的林業家が発生したことにより中部地域では植林が自然に広がり、500万ha国家植林計画の担い手として活躍するようになっている。

引用文献

- 財団法人海外農業開発協会 (2005)** : ベトナム早生樹資源利用開発事業 : 16-17
海外産業植林センター (1999): ベトナムにおける産業植林の可能性と地球温暖化対策上の効果に関するF/S調査 : 37
古本良(2004): ベトナムQPFL社によるアカシアハイブリッド造林. 海外林木育種技術情報13, 独立行政法人林木育種センター : 15-17

(2005年12月1日受付 ; 2006年2月1日受理)

Investment for Afforestation by Foreign Companies in Viet Nam - Case studies of the QPFL and VIJACHIP -

La Vinh Hai Ha and Iida Shigeru

Summary

In 1997, the Viet Nam government made “ Five million hectares National Reforestation Plan” which period was from 1998 to 2010. The government stimulated private sector and promoted to invest for tree planting through non-governmental companies, organizations, households, individual business and joint ventures with foreign companies due to achieve the target of this plan. Midland of Vietnam seemed to be appropriate climate zone for Acacia mangium and Eucalyptus species which have been used for paper materials. And investment conditions mitigated to lure companies out of country. The QPFL and the VIJACHIP were established in this area for making wood chip to Japanese paper companies. These two companies have planted over 20 thousands hectares of acacia and eucalyptus species at bareness mountain. The QPFL has hired forest-land with 35 years by the Bin Dinh province. However, land rented from the local government suffered the QPFL. After all this company has gained low productivity areas deployed all over the province and the most far distant land located nearly 150 km from the office. So far this company could not achieved wood chip production planned, On the other hand, the VIJACHIP has financed to local companies supported by the local authorities to plant trees. As a result, the VIJACHIP has fulfilled good efforts because local companies have found high productivity land and good contractors.

These two companies led by Japanese companies have sown wood chip production systems such as hybrid acacia species, cutting seedling production techniques and chip factory. We would like to explain what kinds of roles of these two foreign companies have done for reforestation policy in Viet Nam.

Key words: Reforestation investment, Foreign capital, Chip production, Right of land use

